

精神保健指定医の指定を受けていない医師による措置診察の実施について

平成 27 年 7 月 14 日
 千葉県健康福祉部障害福祉課
 043-223-2352

平成 25 年度において、措置診察に必要な精神保健指定医（指定医）の指定を受けていない医師に、措置診察を県が 2 回命令していることが判明しました。

この度のことで、措置入院となった方に多大な御迷惑をおかけするとともに、県民の信頼を損なったことを、深くお詫び申し上げます。

今後、このようなことを二度と起こさないよう、再発防止に努めます。

※措置診察・措置入院の流れ（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第 22 条～29 条）

- ①警察官や検察官からの通報等があった場合、県（健康福祉センター）は、措置診察が必要かどうか判断するための事前調査を行う。
- ②当該調査の結果、措置診察が必要と認めたときには、2 名の指定医に診察を命令する。
- ③ 2 名の診察の結果、その者が精神障害者であり、かつ、医療及び保護のために入院させなければ、その精神障害のため、自身を傷つけ、または他人に害を及ぼす恐れがあることについて、判定が一致したときには、県（健康福祉センター）がその者を精神科病院に入院させている。

1 指定医の資格のない医師（1 名）による措置診察

管轄健康福祉センター	判定結果	備 考
習志野健康福祉センター	措置入院が必要	診察したもう 1 名の医師も「措置入院が必要」との判定であったことから、県は措置入院の措置をとった。（措置入院期間：147 日）
松戸健康福祉センター	措置入院が必要	診察したもう 1 名の医師も「措置入院が必要」との判定であったことから、県は措置入院の措置をとった。（措置入院期間：36 日）

2 経 緯

- （1）県精神神経科診療所協会から、平日日中の措置診察のため無償で待機する医師の名簿が平成 24 年 5 月分から毎月提供されている。
- （2）障害福祉課では、当該名簿に記載された無償待機医師の待機日の情報を各健康福祉センターに提供している。
- （3）平成 24 年 6 月分以降の当該名簿に、上記 2 件の措置診察を命令した医師が登載されており、各健康福祉センターは、当該名簿による情報を基に、当該医師に措置診察を命令した。
- （4）本年 6 月 19 日に、上記 2 件の措置診察を命令した医師から、別件で提出された書類において、「指定医登録年月日（当初）」欄及び「指定医登録番号（当初）」欄が空欄であったことから、当該医師に確認した。

- (5) その結果、かつては、精神衛生法による精神衛生鑑定医であり、昭和62年の法改正時の経過措置により指定医業務を行うことができたが、現在は、指定医の指定を受けていないとの回答があった。

※ 改正法の施行日前に鑑定医であった者については、改正法の施行日において指定医の指定を受けたものとみなされる経過措置があった。

この場合、原則として、平成8年度から平成12年度までに研修を受けなかった場合は、指定医の業務が行えなくなる。

3 原因

県精神神経科診療所協会が作成した名簿に登載されている医師について、障害福祉課において精神保健指定医の資格の有無を確認していなかった。

4 対応

(1) 措置入院された方への謝罪

平成27年7月3日に、措置入院となった方のうち連絡のついた1名に謝罪した。

(2) 指定を受けていない医師による措置診察結果の妥当性の検証

県精神保健福祉センター長及び民間病院の医師により、当該措置診察に関わったもう1名の医師（指定医）の診断書を参考に、指定を受けていない医師が作成した2件の診断書を確認し、判定の妥当性を検証したところ、検証実施者（2名）から、2件とも判定は妥当との結果が報告された。

(3) 同様の事例の有無の確認

平成22年4月から本年6月までに措置診察を実施した医師及び平成24年5月以降の無償待機医師名簿に登載されている医師、計348名について、指定医の指定を受けていたか確認し、当該医師を除く、そのすべてが指定を受けていたことを確認した。

5 再発防止について

- (1) 障害福祉課において、これまでに措置診察に携わった指定医のリストを早急に作成する。本年8月以降、健康福祉センターでは当該リストを使用して、医師本人または勤務先医療機関に指定医番号及び有効期限を確認した上で措置診察の指示を行う。
リストは、障害福祉課において定期的に確認のうえ、更新する。
- (2) 県精神神経科診療所協会に対して、待機医師の名簿を県に提出する際には、指定医番号と有効期限を記載するよう要請する。
- (3) 県内の精神科を標榜する医療機関に対し、指定医の指定要件や役割等について周知する文書を送付する。